

1. 評価結果概要表

作成日 2008年1月18日

【評価実施概要】

事業所番号	3270300092
法人名	社会福祉法人 ほのぼの会
事業所名	あかねの里 認知症対応型共同生活介護事業所
所在地 (電話番号)	出雲市上岡田町1031-1 (電話) 0853-62-3133

評価機関名	財団法人 出雲市ひらた福祉公社		
所在地	島根県出雲市平田町2112-1 平田福祉館2階		
訪問調査日	平成19年12月26日	評価確定日	平成20年1月18日

【情報提供票より】(19年12月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11 年 7 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	20 人
職員数	20 人	常勤	13 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 15.5 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 単独	新築 / 改築
建物構造	木造亜鉛メッキ鋼板葺平屋 造り	
	1 階建て	1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	1,500 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数	20 名	男性	1 名	女性	19 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	7 名		
要介護5	2 名	要支援2			
年齢	平均 87.3 歳	最低	74 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	きさ内科・皮フ科クリニック、さとうクリニック、わかば歯科、牧野内科医療
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは設立時より、地域とともに歩んできた経過があり、地元住民が気軽にホームに立ち寄ることをはじめ、自治会と共同でイベント開催や避難訓練を行うなど、すでに地域に溶け込んだ状況である。支援の面では、入居者の残された能力を活用し、それぞれの役割が見出されているとともに、利用者の意を尊重した、自立にこだわった支援がなされている。法人では、特別養護老人ホームをはじめ、2か所のデイサービスなどを運営しているが、運営者、管理者共にグループホームの特性を理解しており、同一法人でありながら、グループホームの職員の異動は行わず、また、異動がないことで、職員のマンネリが起らないよう対策も講じている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、換気・空調と排泄時のプライバシーについて改善課題としてあげられている。換気・空調については、定期的な換気を行い、臭いに対する配慮を徹底しているとともに、寒さという面でもヒーターの導入など改善されている。またプライバシーの面でも、職員で再協議され、しっかりと配慮がなされている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者をはじめとし、職員全員が評価を実施する意義を理解しており、これも含め、事業所の質をより良くしていくとする積極的な姿勢が見られる。またこれまでの外部評価の改善を求められた項目に対しては、早急に改善策を講ずるなど、ホームの更なる質の向上を念頭に置き、日々のケアを行っている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 行政関係、住民、入居者及び家族等をメンバーとし、定期的に開催している。今後の運営方法等、より地域に根ざし、また質の向上を目指した討議を行っている。ホームとしても、これらの意見を真摯に受け止め、ホームの意義、存在感という点を含め、より地域密着に向けた活動を展開、反映させようと取り組んでいる。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 来訪時の声かけ、また通信誌にもその旨を書き、家族等に遠慮なく意見を言ってもらえる体制を作っている。家族等から出された意見、苦情等は職員で話し合い共有し、前向きに受け止め、運営に反映させている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム主催の祭りをはじめ、地元自治会と共同でのイベント開催、小・中学生との交流会の参加等、積極的に地域交流に努めている。今後も、地区老人会への参加、地元小・中学校との交流会、地域の福祉フェスティバルへの参加等、より連携を図ろうとする積極的な姿勢がみられる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人設立時より「地域とともに暮らせる・・・」という理念の基、地元根付いた事業を展開している。自治会をはじめ、地元老人クラブ等との関わりなど、理念に沿ったものとなっている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームでの職員会議、処遇会議をはじめ、法人内研修でも話し合うなど、理念の共有に向けた取り組みが行われ、職員も周知している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームに「地域交流スペース」を併設し、地元自治会と共同でのイベント開催をはじめ、小・中学校、地元老人クラブとの交流など、地域との連携にも積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員ともに評価の意義を十分に理解しており、これを活用しながら、より質の高いホーム作りを行う姿勢が見られる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族、地域代表者、行政関係者等をメンバーとし、2ヶ月に1回、定期的開催している。この会議では、ホームの運営状況や行事の報告をはじめ、今後の展開についても話し合うなど、会議を活かそうとする取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所担当者へ度々訪問し、協議するなど、密に連携をとり、サービスの質の向上を目指し取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月定期的にホーム便りを発行し、報告をしているとともに、家族の来訪時や電話等でも行うなど、それぞれの状況に沿った報告がなされている。また、家族会開催の折には、VTRを活用するなど、普段の生活が、より分かるよう取り組んでいる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時、電話連絡の際の話し合いや、意見箱の設置など、家族等の意見をより多く聴取しようとする取り組みがなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者、管理者ともに、グループホームの特性を十分に理解しており、法人内での職員異動は行われていない。また、離職者もほとんどなく、異動等による入居者への影響は発生していない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修をはじめ、法人内研修にも積極的に参加している。また、日々の業務の中でも職員のレベルアップの機会を持つなど、職員を育てる取り組みがなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会に加入し、その会での事例検討会等への参加、他のホームとの交流を行い、サービスの質の向上を目指し取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員による家庭訪問や、事業所の見学、併設するデイサービスの活用など、馴染みながらサービスを利用できるよう配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「入居者と共に過ごす」という方針のもとでの支援が行われており、共に楽しみ、共に悲しむというケアが実践されている。また、畑仕事や季節行事、また普段の生活から、利用者に教えてもらう場面を多く設けるなど、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の調査をはじめ、入所後もより多くの希望を引き出すよう取り組まれている。その結果、本人の生活歴、趣味等の把握が十分になされ、それぞれの希望に合った支援がなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族等の要望を聞くことをはじめ、毎月の処遇会議でも活発に議論するなど、入居者の能力を十分に勘案し、自立に向けた計画作成がなされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しはもちろん、毎月開催される処遇会議でも議論されている。また状況の変化等あれば、その都度見直しを行い、現状に即した計画作成がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体の特養をはじめ、併設するデイサービスなど、法人の多機能性を活かした支援がなされている。また、それぞれの状況に合わせ、受診の付添等も対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の主治医をそのままかかりつけ医とし、定期的な往診、緊急時の往診など、本人や家族の希望に沿った支援がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしてはあくまでも「自立への支援」にこだわっており、重度化や終末期に向けた方針は作成されていない。ただ、本人や家族の希望を十分に尊重しており、実際に支援を行った経過もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の生活歴や性格等の把握がなされ、それぞれを尊重した声掛け等がなされている。また、記録等の個人情報についても、しっかりと管理され、損ねないよう配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の意向が十分に把握され、それを基とし、それぞれのペースに合わせて支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者とともに食卓を囲み、和やかな雰囲気の中で、食事を楽しむことができる支援がなされている。また、準備や後片付けも入居者とともにやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日入浴や、1日おきなどそれぞれの希望に合わせて実施されている。時間帯についても、本人の希望で入浴できる体制が整っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、畑仕事や家事で、個々の力を発揮できるよう役割を見出している。また、同法人内のデイサービスの行事への参加や、遠くへの外出等、楽しみごと、気晴らしの支援もなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩、地元老人会への出席など、入居者の希望に合わせて対応している。また行事として、弁当持参の外出を行うなど、ホームに閉じこもらないよう支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関が施錠されることはなく、入居者、家族等とも自由に出入りができる。夜間については、防犯上の理由により施錠されているが、家族来訪時などは支障がないよう対応されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元住民とともに、年に2回定期的に行っている。また、住民の要望により、夜間を想定した訓練も実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は個々にチェックし把握している。利用者それぞれのカロリー制限や咀嚼能力に合わせ柔軟に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気の淀みもなく、テレビの音や日光など、利用者には不快感を与えないよう調節している。また、共有空間には使い込まれた食器棚やテーブルを置くなど生活感のある空間作りがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの品が置かれ、家庭的な雰囲気を有し、それぞれにあった居室環境作りがなされている。		